

横浜港・ハンブルク港 姉妹港締結 30 周年！

～クルーズターミナルの陸上電力供給施設の視察と意見交換を行いました！～

横浜港とハンブルク港は、1992（平成4）年姉妹港締結から今年で30周年を迎えました。これまでハンブルク港とは、共同セミナーの開催や相互職員の派遣などを通じ交流を深め、両港の友好関係を築いてきました。

このたび、5月31日（火）、ドイツ・ハンブルク市において、姉妹港締結30周年を記念し、ハンブルクポートオーソリティの最高経営責任者（CEO）のイエンツ・マイヤー氏と面会、横浜市港湾局長のビデオメッセージを送り、両港の共通の課題である脱炭素化に向けた持続可能な港湾運営について意見交換を行いました。

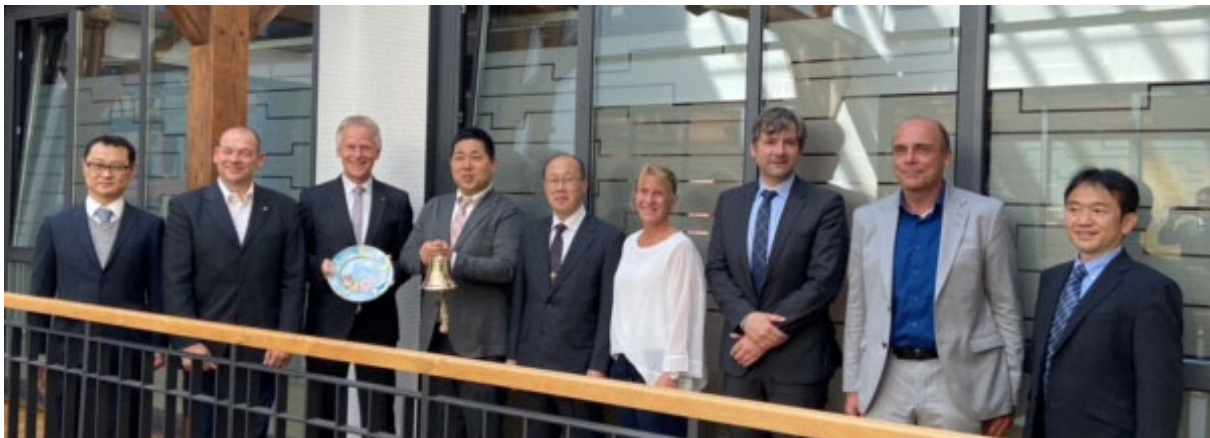
5月30日（月）には、ハンブルク港のアルトナにあるクルーズターミナルで船舶への陸上電力供給施設（裏面参照）の視察を行いました。

ハンブルク ポート オーソリティCEOとの面会

(1) 日時：令和4年5月31日（火）現地時間9:30～10:00（日本時間 16:30～17:00）

(2) 参加者：

ハンブルクポートオーソリティ最高経営責任者 イエンツ・マイヤー氏 ほか
横浜市港湾局、横浜川崎国際港湾株式会社、横浜港埠頭株式会社



▲イエンツ・マイヤー氏（左から3人目）

○ハンブルクポートオーソリティ最高経営責任者マイヤー氏のコメント（要旨）

横浜港はハンブルク港にとって最も歴史のある姉妹港です。締結30周年に際し、両港が直面する課題も大きく変わってきました。特に、環境についての課題は地球規模で変化しています。今回は主に陸電をテーマとし、このような専門的な意見交換ができることは、両港の発展に大きく意味のある取組です。今後も、更にパートナーシップを強化していけることを願っています。

○横浜市中野港湾局長のコメント（要旨）

長きに渡り深い交流を続けることができ、嬉しく思います。横浜港は2050年のカーボンニュートラルポート実現を目指した港湾づくりに取り組んでおり、ハンブルク港での先進的な取組について、多くのことを学びたいと考えています。30周年を契機に、連携協力をさらに強化していきますことを祈念しています。

陸上電力供給施設の視察及び意見交換の様子

(1) 日 時：令和4年5月30日（月）、31日（火）

(2) 内 容：アルトナクルーズターミナルにおける陸上電力供給施設の視察、意見交換会



陸上電力供給施設（電気室内）での説明



意見交換会の様子



陸上電力供給設備の説明

(※) 陸上電力供給とは

船舶が港に停泊している時の排気ガス（CO₂、NO_x、SO_xなど）を削減するため、船舶に陸上から電力を供給する仕組み

記念品について

ハンブルク港からの記念品として、伝統的な船鐘（せんしょう）が贈呈されました。船鐘は、船の上で時間などを知らせるために置かれているものです。

30Years Port Partnership
Yokohama-Hamburg 1992-2022 と刻印されています。

横浜港からは、横浜マイスターの大木しのぶ氏が横浜の象徴的な風景などを絵付けした、記念の絵皿を贈呈しました。



直径 17.5cm ・ 約 2.8kg



横浜港からハンブルク港へ贈呈した絵皿

お問合せ先

港湾局政策調整課担当課長

中村 仁 Tel 045-671-7279